

ICANOF図録の取扱いは、木村書店 (0178-24-3366)、
hypnos bookshop (books@ihypnos.com)、
新宿photographers gallery (http://www.pg-web.net/)、
ICANOF事務局 (090-2998-0224) ほか。

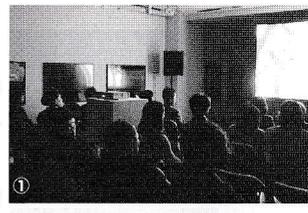
AMUSEMENT
SQUARE

stage



北島敬三写真作品

- ① 稲川方人監督「たった8秒のこの世に、花を」上映
- ② ICANOFアヴァンギャルズと称して出品者を紹介した。
- ③ 石内都作品の前で開かれたアーティストトーク (左から) 筆者、北島敬三、遠藤利克、太田省吾、石内都、花田喜隆



ICANOF
「展」図録出版記念&オープン



ある人は、「素人集団が趣味でやっているんです」そう言ってお物事を評価し取るに足らないものとして排除する。成された行為や作品に對峙することなく、素人だからプロだからといって評価できず時代はとくに過ぎ去ってしまっているというのに。

情報が溢れ、それを消化したただけで、何ごとかを成したかのようにな気になり、自分が動くことなく、他者の行為を非難する。そして、この街に対する不満や物足りなさ

ICANOFは、今年3月第3冊目の図録を刊行した。ICANOFの第3企画展「風景の頭部展」と第4企画展「風景にメス展」との図録であり、活動の記録でもある。二冊組みスタイルのこの図録/写真集は、企画展と協働または共振する「作品」でもある。

ひとは自分でできることをするのであって、自分がしたいと思っことをするわけじゃないのです。あるいはまた、自分がもっている力をもとにして、自分がしたいと思っことをするのです。^{*1}

無論、表現活動をするには、評価される立場に立つことである。他から攻撃を受けやすく、「び弱で」「傷つきやすい」、いわゆるヴァルネラブルな状態に身を置くことでもある。しかし、それは逆に新しい共振作用を生む可能性を持つ場なのだ。「ここでもいまでもない」ものを求めつつ、「ここいまま」にこだわり、モノとコトを見つめ、耳をすまし、感じ取る力を養わない限り新たなものに出来る可能性もない。ヒトやモノとの新たな出会いが、また別の始まりを用意する。それは、ある種の旅のようなものでもある。

この図録には、そんな結びつきが発生する可能性と、飯沢耕太郎、南條史生、太田省吾、遠藤利克、石内都、北島敬三、稲川方人、しりあがり寿などの名と共にICANOFの元素が共存している。ぜひ、図録を手にして、そこに込められた種子と趣旨を読み取り、新たなムーヴメントが身近で始動していることに気づいて欲しい。

「文」亀本光弘 (市民アートサポートICANOFディレクター)

を嘆いてみせることで、自分が優位に立ったかのように思い込む。自分では表現せず、声を上げず、行動せず、傍観者の立場に身を置いたままで、自分にとって望ましい状態を基準にして他者を評価し批判する。そんな振る舞いからは何も生まれないことにも気づいていいはずだ。

演劇空間スペースベン
そして、一歩踏み出せば...
2004年版ICANOF図録のひらき

例えばこういうことだ。ある日、ICANOFが第1回企画展に招いた詩人が映画を監督し、完成させた

それはあらゆる自明のもの、ありきたりな細部、しかしそこに何かいまいかがたいものがある。耳をすまし、感知力をこぎすまし、一瞥する視線で、他の人々が見過ごしてゆく対象をすばやく全的に受けとめるとき、対象は不安を誘う見慣れなさに眩しく輝き、同時にその輝きに「われにかえった」

という知らせが届く。その映画の主人公は、第2回企画展で招いた日本画家であり、その他にもICANOFが係わった詩人や音楽家の名前があることに気づく。そうとなれば上映せざるおけないのがICANOF的仕事というものだ。そして日本初の上映会が急ぎよ実現されてしまふ。

自己は存在の表皮をつきぬけて「人間」の領域へと突出する。名前が失われたその圏域ではじめて、生きていること、旅することの本質的な一致が浮上するのだ。^{*2}

^{*1} ジャン・リュック・ゴダール『ゴダール/映画史1』(筑摩書房、1983年)
^{*2} 菅啓次郎「遠さへの渴き」「トロピカル・ゴシップ 混血地帯の旅と思考」(青土社、1988年)

追記... 3月13日(土)「風景にメス展」のオープニング・パーティーが、図録の出版記念を兼ねて開催された。招待作家、批評家の他に、東京、大阪、京都、横浜、広島、青森、弘前など各地から懐かしい顔や新しい顔が集い、語り、大盛況だった。そこで発生した結節点が、次にどんな動きを生むのか今から楽しみである。

4月の Friday Amusement Negative Shop

- 4月2日 (第530回) オープンライブ (ライブ)
- 4月9日 (第531回) オープンライブ (ライブ)
- 4月16日 (第532回) オープンライブ (ライブ)
- 4月23日 (第533回) オープンライブ (ライブ)
- 4月30日 (第534回) オープンライブ (ライブ)

○FANS番外篇
4月18日 (日) 19:30
西尾まさきブルースライブ
前売2,000円 当日2,500円

※全て午後7時30分～、料金500円
チケットはスペースベンにて販売

Space BEN
〒108-0001 東京都港区赤坂一丁目11-8
0178-43-9876
03-5908-9120

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認ください。

劇団夢遊病社

2001年春、設立。団員数8名。設立後は舞台、テレビ出演、テレビ番組構成、学校などでのワークショップ、イベント台本、高校演劇の審査員、映像作品製作、その他エトセトラ...。数多くの活動は、まるで紙上を埋めるためにあるが如く。劇団設立4年目突入。しかし、未だ旗上げ公演をしていないという奇妙キテレツな劇団、それが劇団夢遊病社である。そんな劇団も4年目にして、今年8月旗上げ公演をする!...予定である。

※スペースベンでは、毎週月曜日午後7時30分から、沼尾美也子さんによりジャズダンスレッスンを開催しています。一度見学にいらして下さい。

FANSでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せないあなた、一度「物語」を書いてみませんか? FANSでは、そんな方の思いを大切にしたいと募集しています。

スペースベンHPアドレス <http://spaceben.com/>
Eメールアドレス owner@spaceben.com